

<金標準、FOMC 以降伸びを欠き「利食い千人力」>



(出所：オアシス)

FOMC 議事録が公開され、「幾人かのメンバーが資産購入ペースの調整に関する計画を協議し始めるのが適切になるかもしれないと提案した」と記載されていた事を受け、またダラス連銀総裁は「テーパリングに備えアクセルをそっと緩めるのが賢明である」と述べるなど、市場には早期の引き締め策に対する懸念が存在する。しかしリスク逃避の商品として注目されたビットコインが、中国人民銀行の決済通貨として否定され、また中国政府は仮想通貨のマイニング（仮想通貨採掘）を規制する処置を発表するなど、仮想通貨の下落で再び金へと乗り換える動きもあり高値は維持されている。

ただ週末にはラガルド ECB 総裁は「6 月の ECB 理事会における金融政策の大きな変更はない」と言及しており、2018 年 6 月同様に FRB と ECB の金融政策の違いに伴うドル高：ユーロ安の動きが金価格の高値追いを止める可能性も高く、今週は利食い千人力の場面と予想される。

(2021 年 5 月 23 日記載)

<テクニカル>

MACD では、MACD の上昇が止まり、シグナルは上昇しており、MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムが縮小するなど、3 月前半における 5900 円で底打ちしたケースと類似した逆パターンを示している。そのため 5 月に入り 300 円近く急激に上昇した反動に対する調整が予想され、10 日移動平均線が位置する 6500 円に向けた下値追いに注意したい。